

## 経営学研究科

### ◎経営学研究科経営学専攻修士課程のナンバリング及びカリキュラムマップ

科目ナンバリング	科目名	学位授与の方針（ディプロマポリシー）		
		経営学に関する幅広い視野、基本的な知識及び思考力を有する。	経営学に関する研究課題について、専門的で学術的な価値のある知見を有する。	経営学に関する学術研究の遂行及び成果の公表にむけて、研究者として必要な知識、技能、意識を有する。
BU100-01-5C-2	経営学特講	◎		
BU100-02-5C-2	経営史特講	◎		
BU100-03-5C-2	経営管理論特講	◎		
BU100-04-5C-2	経営統計論特講	◎		
BU100-33-5C-2	経営戦略論特講	◎		
BU100-05-5C-2	ベンチャー・マネジメント特講	◎		
BU100-07-5C-2	情報処理論特講	◎		
BU100-08-5C-2	経営組織論特講	◎		
BU100-09-5C-2	国際経営論特講	◎		
BU100-10-5C-2	人的資源管理論特講	◎		
BU100-12-5C-2	ファイナンス特講	◎		
BU100-13-5C-2	コーポレート・ファイナンス特講	◎		
BU100-14-5C-2	財務会計論特講Ⅰ	◎		
BU100-15-5C-3	財務会計論特講Ⅱ	◎		
BU100-16-5C-2	国際会計論特講Ⅰ	◎		
BU100-17-5C-3	国際会計論特講Ⅱ	◎		
BU100-18-5C-2	管理会計論特講Ⅰ	◎		
BU100-19-5C-3	管理会計論特講Ⅱ	◎		
BU100-20-5C-2	原価計算論特講Ⅰ	◎		
BU100-21-5C-3	原価計算論特講Ⅱ	◎		
BU100-22-5C-2	経営分析論特講	◎		
BU100-23-5C-2	税務会計論特講Ⅰ	◎		
BU100-24-5C-3	税務会計論特講Ⅱ	◎		
BU100-25-5C-2	租税法特講Ⅰ	◎		
BU100-26-5C-3	租税法特講Ⅱ	◎		
BU100-27-5C-2	租税法特講Ⅲ	◎		
BU100-33-5C-3	租税法特講Ⅳ	◎		
BU100-34-5E-3	租税法特講Ⅴ	◎		
BU100-28-5C-2	監査論特講	◎		
BU100-29-5C-2	商業史特講	◎		
BU100-30-5C-2	流通論特講	◎		
BU100-31-5C-2	商品学特講	◎		
BU100-32-5E-3	特別講義	◎		
BU210-01-5C-3	経営学演習		◎	○
BU210-02-5C-3	経営史演習		◎	○
BU210-03-5C-3	経営管理論演習		◎	○
BU210-04-5C-3	経営統計論演習		◎	○
BU210-25-5C-3	経営戦略論演習		◎	○
BU210-05-5C-3	ベンチャー・マネジメント演習		◎	○
BU210-07-5C-3	情報処理論演習		◎	○
BU210-08-5C-3	経営組織論演習		◎	○

科目ナンバリング	科目名	学位授与の方針（ディプロマポリシー）		
		経営学に関する幅広い視野、基本的な知識及び思考力を有する。	経営学に関する研究課題について、専門的で学術的な価値のある知見を有する。	経営学に関する学術研究の遂行及び成果の公表にむけて、研究者として必要な知識、技能、意識を有する。
BU210-09-5C-3	国際経営論演習		◎	○
BU210-10-5C-3	人的資源管理論演習		◎	○
BU210-12-5C-3	ファイナンス演習		◎	○
BU210-13-5C-3	コーポレート・ファイナンス演習		◎	○
BU210-14-5C-3	財務会計論演習		◎	○
BU210-15-5C-3	国際会計論演習		◎	○
BU210-16-5C-3	管理会計論演習		◎	○
BU210-17-5C-3	原価計算論演習		◎	○
BU210-18-5C-3	経営分析論演習		◎	○
BU210-19-5C-3	税務会計論演習		◎	○
BU210-20-5C-3	租税法演習		◎	○
BU210-21-5C-3	監査論演習		◎	○
BU210-22-5C-3	商業史演習		◎	○
BU210-23-5C-3	流通論演習		◎	○
BU210-24-5C-3	商品学演習		◎	○
BU220-01-6R-3	研究科論文指導		○	◎
BU300-01-5C-2	外国経営書研究Ⅰ（英）	◎		○
BU300-02-5C-2	外国経営書研究Ⅱ（独）	◎		○
BU300-03-5C-2	外国経営書研究Ⅲ（仏）	◎		○

◎経営学研究科経営学専攻修士課程授業科目及び履修単位

授 業 科 目	担 当 者 名	単 位
講 義 科 目		
経営学特講	折 橋 伸 哉	2
経営史特講	菅 山 真 次	2
経営管理論特講	矢 口 義 教	2
経営統計論特講	( 本 年 度 休 講 )	
経営戦略論特講	( 本 年 度 休 講 )	
ベンチャー・マネジメント特講	( 本 年 度 休 講 )	
情報処理論特講	根 市 一 志	2
経営組織論特講	岡 田 耕 一 郎	2
国際経営論特講	村 山 貴 俊	2
人的資源管理論特講	鈴 木 好 和	2
ファイナンス特講	松 村 尚 彦	2
コーポレート・ファイナンス特講	( 本 年 度 休 講 )	
財務会計論特講 I	( 本 年 度 休 講 )	
財務会計論特講 II	( 本 年 度 休 講 )	
国際会計論特講 I	( 本 年 度 休 講 )	
国際会計論特講 II	( 本 年 度 休 講 )	
管理会計論特講 I	佐々木 郁 子	2
管理会計論特講 II	佐々木 郁 子	2
原価計算論特講 I	松 岡 孝 介	
原価計算論特講 II	松 岡 孝 介	2
経営分析論特講	( 本 年 度 休 講 )	
税務会計論特講 I	掘 治 彦	2
税務会計論特講 II	掘 治 彦	2
租税法特講 I	小 池 和 彰	2
租税法特講 II	小 池 和 彰	2
租税法特講 III	掘 治 彦	
租税法特講 IV	掘 治 彦	
租税法特講 V	( 本 年 度 休 講 )	
監査論特講	佐久間 義 浩	2
商業史特講	齋 藤 善 之	2
流通論特講	( 本 年 度 休 講 )	
商品学特講	( 本 年 度 休 講 )	
特別講義	齋 藤 善 之	4
	秋 池 篤	
	池 谷 昌 之	
	伊 藤 功 明	
	工 藤 俊 悦	
	込 堂 敦 盛	
	佐 藤 好 彦	
	設 樂 憲 史	
	鈴 木 茂 之	
	高 橋 弘 美	
	玉 木 歩	
	古 内 義 人	

授 業 科 目	担 当 者 名	単 位
<b>演 習 科 目</b>		
経営学演習	折 橋 伸 哉	4
経営史演習	菅 山 真 次	4
経営管理論演習	矢 口 義 教	4
経営統計論演習	( 本 年 度 休 講 )	
経営戦略論演習	( 本 年 度 休 講 )	
ベンチャー・マネジメント演習	( 本 年 度 休 講 )	
情報処理論演習	根 市 一 志	4
経営組織論演習	岡 田 耕 一 郎	4
国際経営論演習	村 山 貴 俊	4
人的資源管理論演習	( 本 年 度 休 講 )	
ファイナンス演習	松 村 尚 彦	
コーポレート・ファイナンス演習	( 本 年 度 休 講 )	
財務会計論演習	( 本 年 度 休 講 )	
国際会計論演習	( 本 年 度 休 講 )	
管理会計論演習	佐々木 郁 子	4
原価計算論演習	松 岡 孝 介	
経営分析論演習	( 本 年 度 休 講 )	
税務会計論演習	( 本 年 度 休 講 )	
租税法演習	小 池 和 彰	4
租税法演習	堀 治 彦	4
監査論演習	佐久間 義 浩	4
商業史演習	齋 藤 善 之	4
流通論演習	( 本 年 度 休 講 )	
商品学演習	( 本 年 度 休 講 )	
<b>外 国 経 営 書 研 究 科 目</b>		
外国経営書研究Ⅰ (英)	菅 山 真 次	4
外国経営書研究Ⅰ (英)	( 本 年 度 休 講 )	
外国経営書研究Ⅱ (独)	( 本 年 度 休 講 )	
外国経営書研究Ⅲ (仏)	鈴 木 好 和	4
研究科論文指導	小 池 和 彰	4
	堀 治 彦	4

### 履修方法

2年以上在学して、授業科目について次により30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文を提出して、その審査及び最終試験に合格しなければならない。

- (1) 指導教員による講義1科目2単位と演習4単位および研究科論文指導4単位、外国経営書研究4単位合計14単位を修得しなければならない。
- (2) 前号に定めるほか、授業科目の中から16単位以上を修得するものとする。
- (3) 研究指導教員及び当該授業科目の担当教員の承認を得て、他研究科及び専攻の授業科目の中から選択履修することができるものとし、8単位を限度に課程修了に必要な単位として認める。

## 経営学研究科における研究指導計画と論文審査基準・体制

### 学位取得

#### 1. 研究指導計画（学位授与までのプロセス）

本研究科では、入学直後の新入生ガイダンスにおいて、大学院での学習についての一般的諸注意とともに、専任教員による講義内容についての説明と、授業科目担当者による履修希望者への個別指導が実施される。大学院生は、1年次中に、それぞれの研究テーマに基づいて研究計画を作成・提出し、研究科委員会の承認を受ける。

##### 【入学試験時】

面接試験の時に学生の研究関心を確認し、各大学院生が提出した「研究計画書」に基づいて指導教員を決定する。

##### 【1年次】

4月 入学直後の新入生ガイダンスにおいて、大学院での学習についての一般的諸注意とともに、授業科目担当者による履修希望者への個別指導が実施される。

指導教員による講義内容についての説明を受け、その助言を受けて1年次の履修科目を決定し登録する。

3月 各大学院生は、それぞれの研究テーマに基づいて研究計画を作成し指導教員に提出し、研究科委員会の承認を受ける。

##### 【2年次】

4月 各大学院生は、1年次に引き続き指導教員が担当する「研究科論文指導」を履修し、その助言を受けて2年次の履修科目を決定し登録する。

9～10月 修士論文の中間報告会を行う。

中間報告会では指導教員を含む本研究科の全教員から指導と助言を受ける。

1月 修士論文を提出する。

2月 論文審査と口述試験による最終試験を実施し、論文審査結果報告書を提出する。

その結果に基づき、経営学研究科委員会と大学院委員会で可否を決定する。

#### 2. 学位論文の審査基準

経営学研究科の学位授与基準の方針に基づき、修士課程では以下の4つの基準により、論文審査と口述試験による最終審査をもって、修士の学位審査を行う。

1. 経営学に関する幅広い視野、基本的な知識及び思考力を有することが認められる。
2. 経営学に関するいくつかの特定テーマに言及し、かつ専門的な知識を有することが認められる。
3. 経営学に関する研究課題について、専門的で学術的な価値のある知見を有することが認められる。具体的には、①基本文献の理解度、②論旨の一貫性、③文献・資料の引用方法の適切性という三要件が重視される。
4. 経営学に関する学術研究の遂行及び成果の公表にむけて、研究者として必要な知識、技能、意識を有することが認められる。

#### 3. 審査体制

本研究科では、学位論文審査に際して、論文審査委員（主査及び副査各1名）が選任され、論文の査読と口述試験が実施される。審査委員は、その結果を研究科委員会に報告し、審査委員の報告は、研究科委員会での審議によって可否が決定されることになる。研究科長はこの結果を学長に報告し、学長は大学院委員会で審議の後、学位（修士）を授与する。